



# 安全衛生ニュース【2026年1月号】



(株)スタンダード運輸

(株)茨運 スズ工電機(株)

## 総合失調症とは？



総合失調症は、およそ100人に1人がかかるといわれています。特に、10代後半～30代といった若い世代に発症しやすいという特徴があります。総合失調症は決して珍しい病気ではないのですが、どのような病気なのかあまり知られていないのが現状です。総合失調症は多くの病気ではなく、症状や経過が似たさまざまな精神疾患が集まって起こる症候群だと考えられています。代表的な症状には陽性症状、陰性症状、認知機能の軽度の障害などがあります。

## 陽性症状

### 陽性症状 ふだんないものがある

#### ●幻覚

聞こえないはずの声が聞こえる「幻聴」  
見えないはずのものが見える「幻視」  
におわいはずのものがにおう「幻嗅」

#### ●妄想

誤ったことを信じ込む

「陽性」とは、本来“ない”はずのものが“ある”ということです。陽性症状には、主に幻覚・妄想があります。幻覚は、聞こえないはずの声が聞こえる幻聴、見えないはずのものが見える幻視、におわいはずのものがにおう幻嗅（げんきゅう）【※幻臭（けんしゅう）】ともいいます。

## 陰性症状

### 陰性症状 ふだんありはずのものがない

#### 感情の平板化

表情の変化に乏しい  
視線を合わせられない  
ことはの抑揚の低下  
身振り・手振りなどのジェスチャーが減る

#### 意欲の低下

服装・化粧  
ふさわしい持ち物  
身だしなみなどの開心の低下  
社会参加・仕事  
勉強などへの意欲の低下

「陰性」とは、ふだん“ある”はずのものが“ない”ことを指します。

陰性症状には、主に感情の平板化・意欲の低下があります。

感情の平板化には、外部からの刺激に対して、自然に起こるはずの喜怒哀楽の感情が起こりにくくなることをいいます。意欲の低下とは、服装・化粧・持ち物など身だしなみへの開心が低くなることです。

## リスク期の症状

### リスク期

- 誰かに見られているような気がする
- 誰かに心を読まれているような気がする
- 声が聞こえるような気がする
- 危害を加えられるような気がする
- 将来を与件することができると感じるときがある
- 経験したことが現実なのか空想なのかわからなくなることが時々ある。

総合失調症には「**病気の前兆**が現れるリスク期」があり、軽度の幻覚や妄想が起こることがあります。さらに、まとまりのない発言をしてしまうなど、社会生活に関わる機能が低下し、苦痛を感じるようになります。そのほかに、不眠や不安、抑うつなどの症状が出ることがあります。これらの症状が続くと、総合失調症をはじめとする精神疾患に移行する危険性が高まります。

夜眠れない、朝起きられない、不安やイライラの気持ちが長く続くなどの症状がある場合も注意が必要です。

## 総合失調症の再発率

### 総合失調症 1年後の再発率



総合失調症では、治療を中断すると1年後に70%の人が再発してしまうことがわかっています。

一方で、薬を継続した場合は再発する人の割合が30%に減少します。さらに薬とリハビリテーションなどの治療を組み合わせることで、8%まで減らすことができます。総合失調症と診断されると、薬物療法とリハビリテーションを組み合わせた治療を行い、症状が落ち着いて安定した状態を目指します。同時に、就労や就学などの社会復帰を果たすなど、その人らしい生活を取り戻すことを目指しています。

## ティケア

### 総合失調症のリハビリテーション



役割を得ることで自信がつく  
規則正しい生活リズムを身に着ける  
人との付き合い方が上手になる

リハビリテーションには、ティケアなどの共同作業があります。そこで、役割を得ることで自信をもつことができ、社会復帰のための体力づくりや、コミュニケーション能力の向上が図れます。薬物療法やリハビリテーションを継続するには、焦らないことが大切です。また、家族など周囲の人は、本人のつらい気持ちや、回復に向かう過程で生じる不安などに理解を示すことが大切です。周囲からの理解が患者さんの理解につながり、回復力を高めます。理解されている、分かってもらえると感じることができると、安心につながり、自信が出てきてリカバリーにもつながっていきます。

## 薬物療法

総合失調症の治療では、まず薬物療法が行われます。使われる薬は「抗精神病薬」という薬です。幻覚や妄想などの陽性症状を抑える効果があります。

およそ6～7割の患者さんに効果がみられ、服用開始後1～2週間で陽性症状が落ち着いてくるといわれています。

#### ●副作用の出にくい薬を探す

薬を中断してしまうと再発率が高いにもかかわらず、使用をやめてしまう患者さんが少なくありません。

その理由の1つが薬の副作用です。抗精神病薬の副作用には、主に次の3つがあります。

#### 錐体外路（すいたいがいろ）症状

「体が震える」「じっとしていられない」「筋肉が固く、動かしにくくなる」など、パーキンソン病に似た症状が現れます。

#### 体重の増加

服用前の体重の2割程度、増加すると言われています。

#### 強い眠気

目を開けているのがつらいほど、非常に強い眠気が起こります。

## 明けまして

あめでとうございます。

今年もよろしくお願ひします。

